

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書（新規団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『地域洗剤「石垣島、海と山を巡る洗剤」の普及を通して、八重山諸島全域で環境意識を高め、ローカルSDGs事業の創出に繋げる』

活動団体の活動地域：沖縄県石垣市

活動団体名：lagom（ラーゴム）

中間支援主体名：コラコラ（coralcollabo）

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	合同会社lagom
活動地域	沖縄県石垣市

専門性・強み

- #がんこ本舗の技術提供を受けた独自の洗剤開発
- #石垣島の精油を使用した「地域洗剤」の展開
- #すすぎ不要、生分解性で環境にも家事にも優しい製品づくり
- #島内で製造行程の5割を担い、輸送にかかるCO2の排出量を抑制、脱炭素
- #環境意識のボトムアップ
- #生活必需品の地産地消、経済循環

団体の概要

石垣島の植物由来成分を活用した生分解性洗剤の開発・製造・販売を行っていく。石垣島の海を守るため（赤土流出防止のため）畑の周りに植えられたグリーンベルト月桃を原料に使い、豊かな地域資源を生かした商品を開発し、地域を活性化させる事業として島に根ざしていく。環境負荷を抑えた洗剤の普及活動として、日々必ず使う洗剤というものを地産地消に変えることで、私たちの生活が島の自然環境に与える影響を少し考えてみるきっかけになることや、洗剤を通して地域での循環が生まれる事を目指します。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	コラコラ (coralcollabo)
活動地域	石垣島を含む八重山諸島全域

専門性・強み

- #「農」「飲食」「宿」「小売り」「リラクゼーション」「マリンアクティビティ」の6部門27事業者がローカル認証に参加
- #事業者自身でガイドライン作り
- #コミュニケーションの輪を広げ人と人との繋がりを軸にした環境保全を推し進める力
- #人々にライフスタイルの転換を促して、環境問題に先手を打つ
- #

団体概要

八重山ローカル認証である「コラコラ認証」を普及する中で、陸域での人間による活動をどうすれば、海域と陸域両方の環境再生が叶うのかを知ってもらい、八重山諸島における自然環境全般の再生を目指します。環境負荷を生み出している当事者（事業者自身）が自分たちで海域への環境負荷を減らすためのガイドラインを考え、実践し、市民へのライフスタイルの転換を提案しています。人を含めた島に息づくあらゆる命が大切にされる経済循環を生み出すことを目指しています。

活動団体の目指す地域の姿

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

外から運び込んだ資材で新しいものをつくるのではなく、すでに地域にある資源（例えば生育旺盛な植物や、サトウキビ産業、畜産業、林業、コメづくりから出る植物残渣など）の循環や、林業と連携した古民家再生など、すでに島にあるものをより有効に活用した事業を創出し、環境保全と地域経済の活性化が両立している姿。島で持続的な暮らしを繋いできた地元の方々から昔の暮らしの知恵を教えて頂き、それらを普及、継承、発展させていくことに経済が巡るような島にしたい。地元の方の知恵に移住者のアイデアも混ぜ合わせて、伝統と最先端が融合するユニークで持続可能な事業の創出が活発に行われ、関わるすべての人が豊かさを感じられるような地域経済が実現されている島。

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

すでにつながりのある事業者や、行政、地元の宿、主婦層、配送業、離島地域、北部地域の方々とともに、プラットフォームを構築していく。移住者と地元の人々の経済が混ざり合うプラットフォームで、ここに参加すれば、横の繋がりや協力を得たり、自分も何かに貢献できるといふ、ローカルSDGsの理念を基盤とした人間関係の再構築を担うプラットフォーム。プラットフォーム内で資源が循環したり、人材が循環したりする機能も担いたい。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・地域洗剤「石垣島、海と山と巡る洗剤」普及事業
- ・ベチバーや月桃などのグリーンベルトの植物から精油を作る事業
- ・有機農作物や環境保全型商品の配送システム構築事業。

■地域の現状と課題

課題

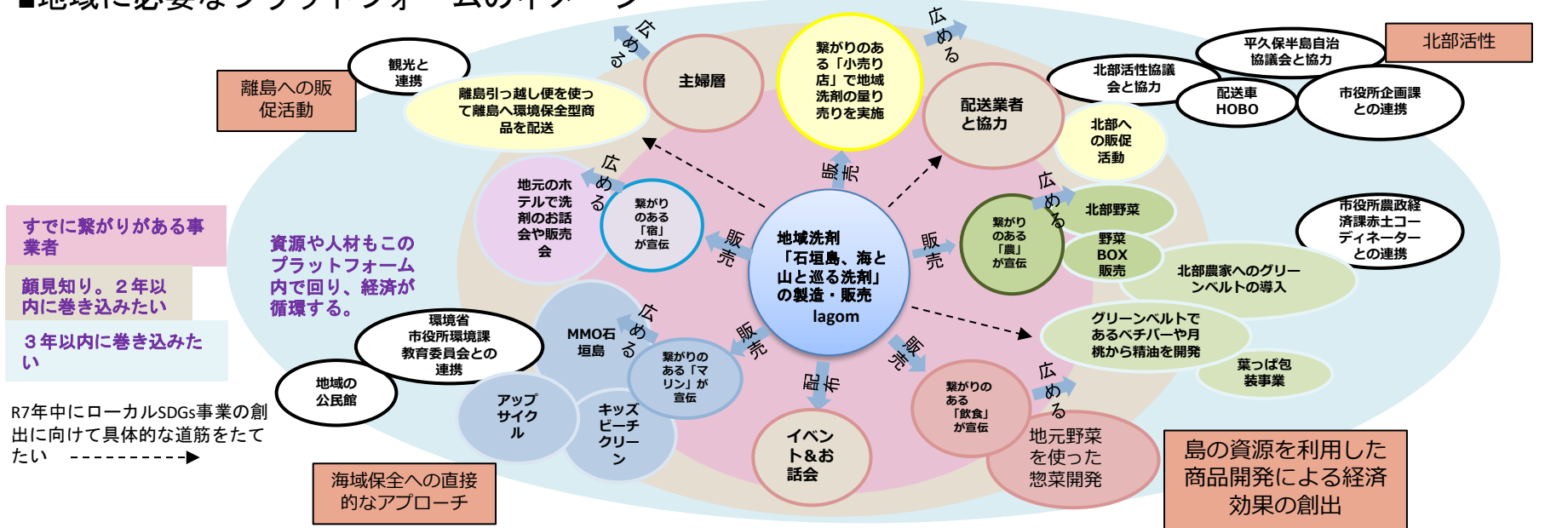
自給率が低い。農業の担い手不足。人口が島の南部に集中していて、北西部の過疎。それに伴う学校の廃校。人口は自然減のため、少子化が進んでいる。リニア型経済で地域内で経済が回っておらず、経済が地域外に流出する構造になっている。賃貸の価格があがり、地元の人々の所得では支払いが困難。オーバーツーリズム。地元の人々の生活が圧迫されている。下水道接続率が低い。所得が低いから接続も困難。島内に進学先がない。20~30代の働き手が少ない。優秀な人材が流出しがち。乱開発。ゴミ焼却場の老朽化。産業廃棄物埋め立て場所がすでに満杯。

資源

島の伝統、文化の担い手が豊富。才能のある移住者が多い。環境意識の高い移住者が多い。サトウキビの生産量が多い。お米の生産量は沖縄県内で1位。植物が豊富。きれいな海。於茂登岳。魚介類。果物。生物多様性。石垣牛。地域ごとに特色がある。

“地域プラットフォーム”のイメージ 及び実現したいローカルSDGs事業

■地域に必要なプラットフォームのイメージ



地方公共団体との今後の関わり

環境省とは既に繋がりがあるので、今後もイベントを共催するなどして関係を深めていきたい。市役所職員の方々はずでに多くの事案を抱えているので無理なお願いはせず、助けになれるという事をアピールしていきたい。定期的なミーティングを設定し、情報交換をしていくことから始めたい

■実現したいローカルSDGs事業

	検討しているローカルSDGs事業（最大3つまで）	地域の環境・経済・社会に起こしたい変化 ※地域課題解決とのつながりを考慮して記載
①	地域洗剤「石垣島、海と山と巡る洗剤」普及事業	八重山諸島では下水道接続率が60%という社会課題がある。そのため、北部地域や離島地域では浄化槽を通っただけの生活排水がそのまま海に直接流れ込んでいるという現状がある。生分解性洗剤であるこの地域洗剤を、八重山諸島で普及拡大することは、河川や海洋の水質保全に貢献する。また、地域経済の活性化や島民の環境意識のボトムアップにつながる。
②	ベチパーや月桃などのグリーンベルトの植物から精油を作る事業	lagomの地域洗剤は石垣島で製造されるのだが、香料はグリーンベルトの月桃から抽出されたものを使用する。グリーンベルトの普及拡大は赤土流出防止に効果があるため、精油事業の拡大は自ずと海洋生態系保全に貢献する。月桃だけでなく、ベチパーなどの植物にも有用性があるので（香水の原料など）、グリーンベルトの植物から精油を製造する商品開発を行いたい。
③	有機農作物と環境保全型商品の配送システム構築事業。	洗剤の地産地消と絡めて、農作物の地産地消も促したい。有機農業は海洋保全に貢献するもので、更に脱炭素にも効果がある農法であるので、まずは有機農作物の配送システムの構築から始めたい。有機農業従事者をふやすためにもまず需要が拡大する必要がある。有機農作物配送と一緒に環境保全型商品の配送システム構築を行いたい。

3カ年状態目標

■2027年度末の状態目標

八重山諸島の全島に、地域洗剤の取扱店がある。コラコラの認証事業者、応援会員、ファンとステークホルダーなどを中心に、地域洗剤の取り組みを通じて繋がりを深めた住民が自主的に大小のプロジェクトを進める。自然環境保全に関心がなかった方たちの関心度を上げて、その中からは活動の仲間になる方も出てくる。行政がこのような住民の活動と協働する価値を知り、積極的な気持ちを持つ。

■2026年度末の状態目標

八重山諸島の離島に数件、地域洗剤の取扱店がある。コラコラの認証事業者、応援会員、ファンとステークホルダーなどを中心に、地域洗剤の取り組みを通じて繋がりを深めた住民が自主的にコミュニケーションを取って、新しい取り組みを始める。それに関連する、デザインや印刷、他さまざまな業務の注文とそのコミュニケーションを通して、地域内で経済圏を作ろうという空気を作る。ステークホルダーミーティングやイベントなどに行政に関係者として参加してもらい、協働できることを感じてもらう。

■2025年度末の状態目標

石垣島で、自然環境の保全に関心の高い関係者を巻き込み、繋げ、この地域洗剤の普及を応援してもらえる体制をつくり、その後のローカルSDGs事業創出に向けて地域内での意識醸成を図れている状態を目指す。構築するプラットフォームの機能を活動団体が明文化できるようにする。コラコラがこれまでの5年間の活動で（勉強会のスタートから数えて）繋がってきた様々なステークホルダーを駆使し、活動団体のプラットフォーム構築に貢献する。行政とは定期的に情報交換を行い、行政が持つ課題の助けになれるという事をアピールし、活動団体との信頼関係を構築する。

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての獲得目標

活動団体が明確なビジョンを描けるようサポートできるようになりたい。ビジョンの実現のためには他者との協力が不可欠なので、人間関係の構築や他者とのニーズのすり合わせをスムーズに行えるようサポートし、協働を実現できる存在に成長したい。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

団体として目指す「島の自然の回復と生活スタイルの転換、それによる自然と人との調和」の実現のため、八重山諸島でローカルSDGs事業の基本理念を広げる。地域の主体と繋がり、環境保全と経済活性の両立を軸にしたビジョンを展開することで、協働の輪を広げられると考える。IAGOMが製造・販売を進める地域洗剤は、①生分解性なので海洋汚染を軽減できる。②3割の製造行程を石垣島で行うため洗剤の輸送にかかるCO2排出量削減に貢献する。③グリーンベルトの月桃から作られる精油を香料として利用することで間接的に赤土流出防止に貢献する。という3つの観点から環境保全に貢献する。この事業は、地域で経済が循環するという観点からもローカルSDGs事業のモデルとなるもので、この地域洗剤の普及を通じて構築されるプラットフォームの先には、新たなローカルSDGs事業の創出が容易になると推測される。行政との連携は課題だが（環境保全に携わっているのは移住者が多く、そもそもの繋がりが少ないため信頼関係を築くのに時間がかかる）、本事業を通して行政の方との情報交換を密にし市が描く都市計画の達成に貢献できるということをアピールする。3年後には委託事業を受け、活動団体と共に行政をサポートできるポジションにつきたい。そのポジションにつくことで地元の方からの信頼も得られ、受け入れてもらいやすくなる。地元の方と移住者が、島にやさしい経済を通して混ざり合う地域密着型のプラットフォームを作り、八重山諸島ならではのユニークなローカルSDGs事業（地域資源を活用して環境・社会・経済を統合的に向上する事業）の創出を促すことに貢献していく。

中間支援主体の支援・取組計画

■中間支援主体の1年間の支援目標

石垣島で、自然環境の保全に関心の高い関係者を巻き込み、繋げ、この地域洗剤の普及を応援してもらえる体制をつくり、その後のローカルSDGs事業創出に向けて地域内での意識醸成を図れている状態を目指す。構築するプラットフォームの機能を活動団体が明文化できるようにする。コラコラがこれまでの5年間の活動で（勉強会のスタートから数えて）繋がってきた様々なステークホルダーを駆使し、活動団体のプラットフォーム構築に貢献する。行政とは定期的に情報交換を行い、行政が持つ課題の助けになれるという事をアピールし、活動団体との信頼関係を構築する。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	新しく始める事業のため、実際にはどの程度生分解性洗剤の需要があるかは把握できていない。潜在的ニーズを掘り起こす作業も必要になるため、まずは全島民に認知してもらえるマーケティングが課題。	地元の方々が情報源として利用する媒体、例えば新聞の折り込み広告や島の情報誌などへの広告の掲載。 子育て世代はInstagramを使って情報収集しているのもので、すでに繋がりのある事業者と協力を仰ぎ、はじめはお試し価格で洗剤を使用してもらい、その代わりにSNS等で定期的に宣伝してもらうというマーケティングも進める。
②	価格帯との折り合い。洗剤の価格だが一年を通してみると高くはないけど、普段400~500円の洗剤を購入している層にとってはどうしても高い印象になる。地域洗剤を使うメリットを明確に簡潔に伝えられるかが課題。	環境負荷の軽減や、節水、洗濯時間の節約という面からもメリットが多くあるということを説明できる機会を作っていきたい。 自主的なイベントや市のイベントに参加して、お試し品を配り、実際に使用してもらおう機会も作る。洗剤という身近なアイテムを変える事で環境保全に貢献できる体験を作り、環境保全と日々の暮らしは直結しているという意識をもってもらう。一度使用すればリピーターになる確率が高いというのは実証されているので、まずは使ってみようという体験をどう作るかに注力したい。
③	現時点で行政の職員との繋がりが無いところから、どのように存在を認知してもらい、信頼関係を築いていくかが課題。	コラコラを通して行政との距離を縮めていく。定期的なミーティングを予定し、お互いの状況把握や、市の課題、都市計画を把握するところからは始める。3年後には行政の委託を受けるなどして行政をサポートできるポジションについてもらいたい。

活動・支援スケジュール

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】							地域洗剤販促イベントorお話し会			地域洗剤販促イベントorお話し会	ステークホルダーミーティング	
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】	上記のイベントを通して、地域洗剤普及活動を石垣島全域にアピールしつつ、ローカルSDGs事業の主体を担えそうな方々に随時声かけしていく。ローカルSDGs事業のアイデアだしを行ったり、ニーズやビジョンをすり合わせたり、時間をかけて関係性を築いていく。											
中間支援主体の支援・取組計画	<ul style="list-style-type: none"> 事業の主体を担えそうな人材とlagomとのミーティングの場を設定し進行役を努め、目的のある会議にする。互いのニーズがどこにあるのかを明確にするのを支援する。 行政とのミーティングを設定。 											

備考（補足説明など必要な場合は記載）

・販促イベントやお話し会では、毎回場所とターゲットを変えて開催する。市街地に住んでる主婦の方や、下水道接続率の低い北部地域や離島地域の方々などを対象に。地域の課題の発掘のためのアンケートも実施する。

・中間支援主体と月一でミーティングし意思疎通を図る。地域のありたい姿を絵や文字に落とし込んだり、構築するプラットフォームの機能を明文化するのを支援してもらう。